

保育所における感染症対策ガイドライン（2018年3月改訂版・厚生労働省より抜粋）

	登園を控えるのが望ましい場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
発熱時の対応	<p>○24時間以内に38℃以上の熱が出た場合や、又は解熱剤を使用している場合</p> <p>○朝から37.5℃を超えた熱があることに加えて、元気がなく機嫌が悪い、食欲がなく朝食・水分が摂れていないなど全身症状が不良である場合</p>	<p>○38℃以上の発熱があり、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気がなく機嫌が悪いとき ・咳で眠れず目覚めるとき ・排尿回数がいつもより減っているとき ・食欲なく水分が摂れないとき <p>※熱性けいれんの既往児が37.5℃以上の発熱があるときは医師の指示に従う。</p>	<p>○38℃以上の発熱の有無に関わらず、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔色が悪く苦しそうなとき ・小鼻がピクピクして呼吸が速いとき ・意識がはっきりしないとき ・頻回な嘔吐や下痢があるとき ・不機嫌でぐったりしているとき ・けいれんが起きたとき <p>○3か月未満児で38℃以上の発熱があるとき</p>
<p>※ 発熱については、あくまでも目安であり、個々の平熱に応じて個別に判断する。</p>			
下痢の時の対応	<p>○24時間以内に複数回の水様便がある、食事や水分を摂るとその刺激で下痢をする、下痢と同時に体温がいつもより高いなどの症状がみられる場合</p> <p>○朝に、排尿がない、機嫌が悪く元気がない、顔色が悪くぐったりしているなどなどの症状がみられる場合</p>	<p>○食事や水分を摂るとその刺激で下痢をするとき</p> <p>○腹痛を伴う下痢があるとき</p> <p>○水様便が複数回みられるとき</p>	<p>○元気がなく、ぐったりしているとき</p> <p>○下痢の他に、機嫌が悪い、食欲がない、発熱がある、嘔吐する、腹痛があるなどの諸症状がみられるとき</p> <p>○脱水症状がみられるとき (以下の症状に注意すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下痢と一緒に嘔吐 ・水分が摂れない ・唇や舌が乾いている ・尿が半日以上出ない ・尿の量が少なく、色が濃い ・米のとぎ汁のような白色水様便が出る ・血液や粘液、黒っぽい便が出る ・けいれんを起こす

保育所における感染症対策ガイドライン（2018年3月改訂版・厚生労働省より抜粋）

	登園を控えるのが望ましい場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
嘔吐の時の対応	<p>○24時間以内に複数回の嘔吐がある、嘔吐と同時に体温がいつもより高いなどの症状がみられる場合</p> <p>○食欲がなく、水分も欲しがらない、機嫌が悪く元気がない、顔色が悪くぐったりしているなどの症状がみられる場合</p>	<p>○複数回の嘔吐があり、水を飲んでも吐くとき</p> <p>○元気がなく機嫌、顔色が悪いとき</p> <p>○吐き気がとまらないとき</p> <p>○腹痛を伴う嘔吐があるとき</p> <p>○下痢を伴う嘔吐があるとき</p>	<p>○嘔吐の回数が多く、顔色が悪いとき</p> <p>○元気がなく、ぐったりしているとき</p> <p>○血液やコーヒーのかすの様な物を吐いたとき</p> <p>○嘔吐のほかに、複数回の下痢、血液の混じった便、発熱、腹痛等の諸症状がみられるとき</p> <p>○脱水症状と思われるとき （以下の症状に注意すること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下痢と一緒に嘔吐 ・水分が摂れない ・唇や舌が乾いている ・尿が半日以上出ない ・尿の量が少なく、色が濃い ・目が落ちくぼんで見える ・皮膚の張りが無い <p>※頭を打った後に嘔吐したり、意識がぼんやりしたりしているときは、横向きに寝かせて救急車を要請し、その場から動かさない。</p>

保育所における感染症対策ガイドライン（2018年3月改訂版・厚生労働省より抜粋）

	登園を控えるのが望ましい場合	保護者への連絡が望ましい場合	至急受診が必要と考えられる場合
咳の時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○夜間しばしば咳のために起きる、ゼイゼイ音、ヒューヒュー音や呼吸困難がある、呼吸が速い、少し動いただけで咳が出るなどの症状がみられる場合 	<ul style="list-style-type: none"> ○咳があり眠れないとき ○ゼイゼイ音、ヒューヒュー音があるとき ○少し動いただけでも咳が出るとき ○咳とともに嘔吐が数回あるとき 	<ul style="list-style-type: none"> ○ゼイゼイ音、ヒューヒュー音がして苦しそうなとき ○犬の遠吠えのような咳が出るとき ○保育中に発熱し、息づかいが荒くなったとき ○顔色が悪く、ぐったりしているとき ○水分が摂れないとき ○突然咳きこみ、呼吸が苦しようになったとき <p>※突然咳きこみ、呼吸困難になったときは異物誤えんの可能性があります、異物を除去し、救急車を要請します。</p>
	登園を控えるのが望ましい場合	保護者への連絡が望ましい場合	
発しんの時の対応	<ul style="list-style-type: none"> ○発熱とともに発しんのある場合 ○感染症による発しんが疑われ、医師により登園を控えるよう指示された場合 ○口内炎がひどく食事や水分が摂れない場合 ○発しんが顔面等にあり、患部を覆えない場合 ○浸出液が多く他児への感染のおそれがある場合 ○かゆみが強く手で患部を掻いてしまう場合 	<ul style="list-style-type: none"> ○発しんが時間とともに増えたとき 発しんの状況から、以下の感染症の可能性を念頭におき、対応すること ・かぜのような症状を伴う発熱後、一旦熱がやや下がった後に再度発熱し、赤い発しんが全身に広がった。（麻疹） ・微熱程度の熱が出た後に、手の平、足の裏、口の中に水疱が出た。（手足口病） ※膝やおしりに発しんが出ることもある ・38℃以上の熱が3～4日続き下がった後、全身に赤い発しんが出た。（突発性発しん） ・発熱と同時に発しんが出た。（風しん、溶連菌感染症） ・微熱と同時に両頬にりんごのような紅斑が出た。（伝染性紅斑） ・水疱状の発しんが出た。（水痘） ※発熱やかゆみには個人差がある <p>※食物摂取後に発しんが出現し、その後、腹痛や嘔吐などの消化器症状や、息苦しさなどの呼吸器症状が出現してきた場合は、食物アレルギーによるアナフィラキシーの可能性があり、至急受診が必要となります。</p>	